

【解説】

第1問 世界史上の帝国の支配とその影響

A

リード文Aは、五賢帝時代の終了から「3世紀の危機」へ向かう帝政ローマの様子を述べている。

P. 91の地図から見てとれるように、ローマ帝国は地中海とその周辺に属州を拡大し、ドナウ川以北のダキアも獲得していた。東方ではパルティアが「ライバル」となっている。しかし、帝国の膨張は内部対立と外敵の侵入の原因にもなった。P. 90の[1]で、軍人皇帝時代の到来とゲルマン人やササン朝の侵入を確認したい。

その後に登場するディオクレティアヌスやコンスタンティヌスは、皇帝崇拝・官僚制整備・キリスト教公認などそれぞれのやり方で、危機に対処するのである。

問1 正解④ (2世紀の出来事) [1]

センター試験ではおなじみの「○世紀の出来事」という問題。P. 16の全体地図で確認できる。後漢とローマ帝国の間に、パルティア・クシャナ朝を経由して陸路で、サータヴァーハナ朝・扶南・林邑を経由して海路でも、人とモノの交流があったことがわかる。具体的にはシリアに至った甘英、日南に至った大秦王安敦の使者(自称)、南インドや東南アジアから出土するローマの金貨などである。

①ハルシャ=ヴァルダナの王国には唐僧玄奘が訪れており、7世紀の出来事である。

P. 98の[1]、P. 27の全体地図などで確認しよう。

②赤眉の乱は王莽の政策に反発するもので1世紀の出来事。民衆反乱はきっちりと整理したいポイントの1つなので、巻末の中国王朝の変遷を参照しよう。

③ローマ帝国のキリスト教公認はコンスタンティヌス帝のミラノ勅令によるもので、4世紀の出来事。P. 94の[1]で、1世紀の原始キリスト教成立→その後の迫害→ディオクレティアヌスによる大規模な迫害→公認という流れを整理したい。

問2 正解③ (パルティアの歴史) [2]

アケメネス朝・パルティア・ササン朝の古代イラン系国家は相互比較しておきた

い。P. 77 の[2]が最適。これらの国家はいずれも東西交易で栄えたため、地中海やインドとの関係もおさえることが重要である。P. 76 の地図[A]から[C]で確認しよう。

③ダレイオス 1 世はアケメネス朝の全盛期を現出した王。帝国の領土もエーゲ海を越えてギリシア側に到達している。P. 74 の地図[B]参照。

問 3 正解④ (ブリテン島の歴史) [3]

ブリテン島(グレートブリテン島)は、現在のイギリスの国土の大半を占める島。

①ポエニ戦争はフェニキア人との抗争で、西地中海をめぐる戦い。P. 89 の地図[C]など参照。ブリテン島がローマの支配下に置かれるのは 1 世紀のこと。五賢帝時代には、ハドリアヌスによって長城が築かれた(P. 90 写真④)。

②ブリテン島(イギリス)の歴史を考えると、ノルマン人の動きを忘れてはならない。P. 136 の[2]を見て、ローマ帝国領→アングロ=サクソン七王国の成立→ノルマン系デーン人の侵入失敗(アルフレッド大王が撃退)→デーン人がイングランド征服(デンマーク王子クヌートによる)→北フランスのノルマンディー公によるイングランド征服、という流れを確認したい。

③アヴァール人を撃退するのはカール大帝。P. 135 の[2]参照。

④ノルマン朝とプランタジネット朝はフランスにも領地を持っていたため、イングランド王とフランス王の関係は複雑であった。P. 147 の[5]の地図[B]・[C]参照。フランスのアンジュー伯アンリがイングランド王に即位し(ヘンリ 2 世)、プランタジネット朝が成立した。

B

ウィーンを中心とするハプスブルク家を君主とする帝国の盛衰については、P. 202 の地図[B]、P. 230 の地図[A]および P. 268 の地図[A]を見たい。ウィーンの持つ多文化共栄の雰囲気については P. 230 のコラムを、冷戦時代の特殊な地位については P. 56 のヨーロッパ拡大地図を見たい。スイスとともにオーストリアが、東西どちらの陣営の軍事機構にも属していないことが確認できる。

問 4 正解① (ハプスブルク家の君主の事績) 4

- ①啓蒙専制主義は、経済発展や市民層の台頭が遅れていた東欧諸国に見られやすい。ヴォルテールと親交のあったフリードリヒ 2 世 (P. 202)、その支配下のプロイセンとしばしば対立したオーストリアのヨーゼフ 2 世 (P. 202) などが有名。さらに、この 2 人とともにポーランド分割 (P. 203 の[3]) を行ったロシアのエカチェリーナ 2 世も、啓蒙専制君主に数えられる。
- ②百年戦争の一因は、イギリスのエドワード 3 世がフランス王位継承権を主張したことにある (P. 148[1]参照)。
- ③④フリードリヒ 2 世はプロイセンの君主。彼が造営したサンスーシ宮殿はロココ様式の傑作 (P. 209 の写真⑥⑦参照)。プロイセン興隆の基礎をつくったフリードリヒ=ヴィルヘルム 1 世については P. 202 参照。
- ②～④は事象としては正しいが、ハプスブルク家の君主ではないため誤り。

問 5 正解② (旅行に関わる書物) 5

- ①②近世ヨーロッパの文学はピューリタン文学・風刺文学など、政治の動向と結びついたものが多い。それぞれの特徴については P. 206 の[1]で、具体的な作品としては P. 209 の[2]で確認しよう。
- ③④P. 115 の[2]参照。仏図澄は鳩摩羅什らとともに南北朝時代の渡来僧として有名。『仏国記』を著した法顕は南北朝時代の渡印僧。『南海寄帰内法伝』は義浄が著したもので、彼はハルシャ=ヴァルダナの王国以後の分裂期のインドに海路渡印した。整理が必要なため、P. 119 のコラムを確認しよう。孔穎達は儒学者で『五経正義』を著し、唐代訓詁学の発展に寄与した。こちらは P. 118 の[1]。

問 6 正解③ (冷戦) 6

第二次世界大戦後の概観のページ(P. 284)にすべての関連事項が掲載されている。

①P. 296 の 1にあるように、金日成による朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)と、李承晩による大韓民国(韓国)の成立後、朝鮮戦争が勃発する。その経過や国際的影響については同ページの 2に詳しい。

②ドイツとベルリンの分割占領(P. 286)は、ベルリン封鎖という一触即発の事態を生んだ(P. 286 の写真②)。封鎖自体は解除されたが、その後、ドイツとベルリンは東西に分断される。

③冷戦終結を象徴するのはブッシュとゴルバチョフのマルタ会談(P. 291 写真⑩)。

突然の出来事ではなく、I N F 全廃条約やベルリンの壁崩壊など前ぶれはあった。

④トルーマンについては P. 286 の人物コラムを参照。共産主義に対する「封じ込め政策」が冷戦構造を確定的にした。

C

オーストラリアの歩みについては、P. 258 の[2]参照。ニュージーランドとともに 20 世紀前半にはウェストミンスター憲章を批准し、イギリス連邦の一員となっている。また、オーストラリア・ニュージーランドはカナダ・南アフリカと同様、イギリスの五大自治植民地(P. 225 の[1])に数えられ、アジア・アフリカの他の植民地とは一線を画していた。

問 7 正解④ (オーストラリア連邦の成立時期) [7]

P. 225 の[1]から見てとれるように、イギリスの五大自治植民地の多くは 20 世紀初めに成立する。また、P. 258 の[2]でオーストラリアは南アフリカ戦争に派兵中に連邦として独立したこと、同時に白豪主義を採用して、アジア・太平洋の一角で「ヨーロッパ」としての地位を保ったことを確認したい。

問 8 正解③ (ビザンツ帝国とムガル帝国の公用語) [8]

公用語はしばしば、ある文化の影響圏を示すので、注意したい。

- a P. 139 を見よう。ローマ帝国の東西分裂後、ほどなく西ローマ帝国は滅亡するが、ビザンツ帝国は「ローマ的伝統」を維持した。しかし、ゲルマン人やイスラーム勢力の攻勢によって次第に領土を失い、「ギリシア的社会」の帝国に変貌していく。7 世紀のギリシア語の公用語化や 11 世紀のギリシア正教会の成立を確認したい。
- b イスラーム世界では王朝の民族系統に関係なく、イラン系の官僚やペルシア語文学が大きな影響力を持っていた。例えば P. 128 ではイラン系の文化人(赤字)が多く活躍したことが見てとれる。P. 181 の[4]に見られるように、トルコ系イスラーム国家のムガル帝国でも公用語はペルシア語であった。ウルドゥー語の成立にもペルシア語が影響していた。

問 9 正解③ (世界史上の植民地) [9]

- ①ジョゼフ=チェンバレンはイギリスの植民相で、首相ディズレーリとともに帝国主義政策を展開した。P. 256 参照。
- ②トゥサン=ルヴェルチュールは P. 224 参照。ラテンアメリカ最初の独立国(ハイチ)

成立に尽力した人物。

- ③フィリピンの民族運動に関わったホセ=リサルやアギナルドについては，P. 247 の⁴参照。東南アジア各国の独立過程には共通点・相違点がある。P. 247 や P. 273 の⁶を見て整理したい。
- ④ネルーはガンディーと並び称されるインド独立運動の中心人物で，第二次世界大戦後は第三世界を代表する政治家の一人となった。P. 273 の⁵でラホール大会を指導したこと，P. 297¹で独立後のインドの初代首相となったこと，P. 289 の²で平和五原則の発表を行ったこと，などを確認しよう。

第2問 世界史上の港町

A

リード文にあるような中国と海洋ネットワークの結びつきについては、P. 160 などを参照。同ページの13世紀の図を見ると、泉州の位置づけやムスリム商人の役割も理解しやすい。

問1 正解① (世界史上の交易) 10

①P. 73 の2参照。「海の民」侵入後の東地中海ではアラム人・フェニキア人・ヘブライ人がそれぞれ、歴史上重要な役割を果たす。陸上交易で活躍しアラム文字を普及させたアラム人、海上交易を発展させアルファベットの原型となるフェニキア文字をつくったフェニキア人、ユダヤ教の基礎信仰を形成したヘブライ人、といった諸民族の特徴をおさえておこう。

②P. 131 の5参照。現在もサハラのキャラバンは岩塩を扱っている(写真④参照)。アフリカについては、キリスト教を受容した阿克苏ム王国、イスラーム化したマリ王国、交易に伴いスワヒリ文化が発展した東部海岸都市などもP. 131 で整理できる。アジアと欧米に偏った学習にならないよう、この機会に確認したい。

③マラッカを含む東南アジアは近年、中国・日本・インド方面とも結びつく海域世界として注目されている。P. 168 の2を見て、明の朝貢交易圏の中心にマラッカ王国があることを確認しよう。

④アラブ人あるいはメッカの交易活動についてはP. 122 の1を参照。ムハンマド自身も商人の家柄であった(P. 122 の写真②の解説参照)。

問2 正解② (広州) 11

清の歴代皇帝による交易政策やキリスト教に対する政策については、P. 170 の1で確認。乾隆帝時代にヨーロッパ船の貿易港が広州に指定された。広州は寧波(明州)などとともに宋代の市舶司も置かれていた(P. 154 の地図A)。

問3 正解② (アフリカ東海岸の港町) 12

a マリンディでは商業活動に伴い、アフリカ文化とイスラーム文化が融合してス

ワヒリ文化が生じた。P. 131 の **6** に詳しい。

- b** ポンディシェリはインド東岸の都市。ヨーロッパ諸国がアジア各地に拠点を築いて行く過程は P. 210 の **1** や P. 211 地図 **A**・**B** で整理したい。18 世紀半ばまで続いた英仏の植民地獲得競争は、イギリスの勝利で一段落する。各国の勢力盛衰も P. 210 の **1** で確認できる。

B

リード文の通り，大航海時代以降のヨーロッパでは商業の中心がイタリアから大西洋岸に移り（商業革命），付随して様々な影響が見られた。大航海時代の先駆けとなったポルトガル・スペインの動きについては P. 182 の¹，商業革命やこれに伴う価格革命については P. 183 の³を参照。

問 4 正解①（ポルトガルの歴史）¹³

- ①ポルトガルとスペインの進出競争は「縄張り確定」の必要性をもたらし，トルデシリャス条約・サラゴサ条約が締結された。その境界線は P. 183 の地図^A参照。
- ②フォークランド戦争は，フォークランド諸島の領有をめぐって起こったイギリス・アルゼンチン間の戦争。P. 308 参照。
- ③カルマル同盟はデンマークを中心とする北欧 3 国の同盟で，P. 149 の地図^Bと解説で確認できる。北欧 3 国の歴史は教科書でも扱いが少ないが，P. 231 でテーマとして扱っているので，一度整理して弱点を無くしておきたい。
- ④ポーランドは第一次世界大戦後の東欧独立国の一つだが（P. 266 の¹の地図），第二次世界大戦勃発に際してドイツとソ連の侵攻を受けた（P. 280 の²）。P. 280 の地図^Aで見ると，ポルトガルはどちらの陣営にも属していない。

問 5 正解①（ゴア）¹⁴

ゴアは 1510 年にポルトガルが占領し，アジア進出の拠点としたインド東岸の都市。ヨーロッパ諸国の植民活動については P. 210～212 で整理できるが，時系列で追うだけでなく，地図をしっかりと利用して地理的把握も行っておこう。

問 6 正解④（イタリアの歴史）¹⁵

- ①ギリシア人の植民については P. 79 の³参照。共和政ローマの領土拡大過程の地図（P. 88 の地図^A）でも，ギリシア人の居住地域が見てとれる。
- ②ゲルマン国家の一つランゴバルド王国は北イタリアに成立した。P. 134 の地図^Aで確認しよう。この国をカール大帝が滅ぼしたことで，教皇との結びつきを強め，「戴冠」に至る。P. 135 の²を見て整理したい。
- ③イタリア=ルネサンスの保護者として名高いメディチ家については，P. 189 に用語

解説があるので確認しておこう。メディチ家の拠点といえるフィレンツェの位置は、当時のイタリア(分裂状態)の地図上で確認したい(P. 188 の地図 **A**)。

- ④ ヴィットーリオ=エマヌエーレ 2 世については P. 228 の **1** で確認。首相カヴールの手腕やガリバルディの征服活動を得て、イタリア国王となる。ローマ進軍はイタリアのファシズムの台頭を示す出来事で、ドイツのミュンヘン一揆とほぼ同時期である。1920 年代のヨーロッパでは敗戦国のみならず、イギリス・フランスでも不況を背景に左翼勢力の拡大が見られた。左翼の動きを暴力的に封じようとしたのがファシズムである。P. 268 の **1** や P. 269 の **4** などを確認しよう。

C

問7 正解③ (繊維の原料や製品) 16

- ①P. 154 の3に江南開発のまとめがある。魏晋南北朝時代に江南への移住者が急増し、南宋の頃に「蘇湖熟すれば天下足る」といわれるほどの穀倉地帯に発展した。明代以降には「湖広熟すれば天下足る」といわれ、綿織物業が副業として発展する。明清代の産業についてはP. 172 で確認しよう。綿織物や米は山西商人・徽州商人の扱う重要な物産であった。
- ②産業革命の技術発展史についてはP. 213 の1や3を見よう。ジョン=ケイの飛び杼の発明で綿糸の不足が起こり、各種紡績機が発明された。その結果、今度は綿糸の過剰供給が起こり、蒸気機関を用いた力織機の発明が促される。人物名と機械を単純に対応させるよりも、流れを意識したい。
- ③アメリカ南部では奴隷を使役した大規模な綿花プランテーションが発達し、奴隷制をめぐる南部と北部の対立は南北戦争の一因となった。P. 213 を見よう。
- ④P. 254 にもあるように、19 世紀後半の第2次産業革命で電気や石油の利用が広まった。したがって、ナイロン開発の時期として18世紀はおかしい。

問8 正解② (ヨーロッパ諸国の通商活動) 17

- a P. 183 の3を確認しよう。ヴェネツィアなどの北イタリア諸都市に向かって、アジアからの奢侈品が入っている。この流れを変えたのが大航海時代の到来である。
- b カピチュレーションについてはP. 179 に解説があるので確認しよう。オスマン帝国はスレイマン1世の死後の1569年にフランスにカピチュレーションを付与し(P. 178 の1参照)、後にイギリスやオランダにも与えた。

問9 正解② (ギリシアの独立) 18

P. 223 の2を参照。ウィーン体制はフランス革命に対する反動のようなもので、自由主義をおさえ込もうとする側面が強い。一方でフランス革命から「輸出」された自由の理念は各地のナショナリズムにも火をつけ、ラテンアメリカ・ギリシアの独立運動が成功した。ギリシアが独立できたのは、オスマン帝国の支配からギリシア

を切り離すことで利益を得る英仏露の援助があったため (P. 232 の¹)，以降，バルカン半島をめぐる東方問題が顕在化する契機となった。

ウィーン体制下の自由主義やナショナリズムの動きは P. 223 の²のように 3 波に分けて考えたい。また，ポーランドのように独立できなかった地域もある。

第3問 世界史上の軍隊

A

リード文に述べられている傭兵については P. 200 の写真③の解説や人物コラムを参照。三十年戦争の主役の 1 人ヴァレンシュタインも、傭兵を率いて戦った軍人の代表である。

問1 正解④ (三十年戦争) 19

P. 200 で三十年戦争の経過を確認しよう。同戦争は宗教戦争として最大級であるが、デンマーク・スウェーデンなどのプロテスタント側にカトリック国のフランスも加わっていることに注意。ハプスブルク家とフランス王家の抗争がここにもあらわれている。戦争後半にグスタフ＝アドルフとヴァレンシュタインの戦いが見られる。

リシュリューはフランス国王ルイ 13 世のもとで宰相をつとめ、三十年戦争への介入に関わった。P. 201 を参照。ミハイル＝ロマノフはロシアのロマノフ朝を創始した人物。P. 204 の 1 で確認。

問2 正解④ (フランスの軍隊の歴史) 20

①クレシーの戦いは P. 147 写真⑦の解説を参照。百年戦争の前半はイギリスが優位に立っており、この戦いでは兵器の差がものをいった。フランス劣勢の戦況を覆す契機といわれるジャンヌ＝ダルクの活躍については、同ページの人物コラムを見てほしい。

②P. 232 を参照。クリミア戦争はロシアの南下政策の失敗を象徴している。ロシアがギリシア正教徒の保護を名目にオスマン帝国と開戦したのに対し、ロシアの南下政策を警戒するイギリス・フランスはオスマン帝国側に立って参戦した。P. 233 の 2 でも見てとれるように、この戦争での敗北はロシアに衝撃を与え、農奴解放令へとつながっていく。フランスにとってのクリミア戦争は、ナポレオン 3 世がめざした「フランスの栄光」を高めるための対外戦争の一つであった。P. 227 の 6 参照。

③P. 228 で、プロイセン＝フランス戦争の結果ドイツ帝国が成立したこと、アルザス・ロレーヌをドイツが得たことを確認。アルザス・ロレーヌをめぐる争いにつ

いては、同ページの用語解説で確認しておこう。

- ④インドシナ戦争末期のディエンビエンフーの戦いにフランスが敗れ、ジュネーヴ休戦協定調印に至った(P. 299 の¹⁾)。これによりベトナムは南北分離状態となるが、その後、アメリカ・ソ連・中国を巻き込んだベトナム戦争に突入していく。

問 3 正解③ (世界史上の税制) 21

- ①P. 126 の²⁾で、アター制とイクター制の相違を確認。イクター制はブワイフ朝・セルジューク朝以降、多くのイスラーム国家で採用された。
- ②賦役黄冊は明の洪武帝時代の事象。P. 166 の¹⁾で、洪武帝の他の事績も整理しよう。北宋時代の富国策としては王安石の新法が重要。P. 153 で背景とともに整理したい。
- ③ザミンダーリー制については P. 245 の⁴⁾を確認。
- ④イギリス革命の展開は P. 205 で整理する必要がある。各派の主張や動きだけでなく、アイルランドやオランダなど海外との関係、権利の請願・人身保護法・権利の章典等の重要文書など、多面的に見ておきたい。P. 356 には関係文書の解説があるので、出題されているポイントを確認しておこう。

B

問 4 正解④ (清の軍隊) 22

P. 37 の全体地図を見ると、中国東北部は女真(金)の支配下にある。P. 43 で 15 世紀の様子を見よう。同地域は明の支配下であるが、女直(女真)の居住がうかがえる。P. 167 の 5 を見よう。16 世紀の後半にヌルハチが女真をまとめ、八旗を率いて 1616 年に後金を建国する。

猛安・謀克は南宋と対峙した金の統治制度で、P. 153 の 3 に掲載。

問 5 正解① (世界史上の都市) 23

- ① アズハル学院はカイロに成立した、現存ではイスラーム世界最古の学府。P. 126 の写真①参照。イスラームの教育機関としては、セルジューク朝のニザーミーヤ学院にも注意(P. 125 写真⑧の解説参照)。アレクサンドリアで有名な学府はプトレマイオス朝時代のムセイオンで、P. 83 を確認。ヘレニズム文化の学問的発展を象徴する場所であった。
- ② カンボジアのアンコール=ワットと、インドネシア(ジャワ島)のボロブドゥールは東南アジア古代史の二大遺産といえる。アンコール=トムはアンコール=ワットに隣接する都城である。王都の復元図も含めて P. 101 に詳しい。
- ③ P. 255 に社会主義に関するまとめがある。インターナショナルの本部・中心政党・解散した理由などは当時の世界情勢を反映しているので、確認しておきたい。
- ④ 中国で綿織物や陶磁器産業が本格化したのは明清代。P. 172 の 1 や地図 A で確認できる。

問 6 正解⑥ (遊牧国家の歴史) 24

広い地域にまたがる問題は、全体地図を利用して確認したい。

- a P. 37 で、金の建国、耶律大石の西遷、西遼(カラ=キタイ)の成立、を確認しよう。
- b P. 22・23 で、突厥・ササン朝とエフタルの関係を確認。しかし、5 世紀のエフタルは勢力を拡大し最盛期へ向かっている。滅ぼされるのは次世紀になる。
- c P. 22・23 で、フン人が西進してヨーロッパに進出したことを確認し、P. 134 で、

アッティラ率いるフン人が西ローマ・ゲルマン連合に敗北したことを確認しよう

C

リード文にある，第一次世界大戦への日本の参戦については，P. 261 右下参照。
中国も連合国側に加わっており，戦勝国となるが，山東権益の返還要求が受け入れられず，ヴェルサイユ条約には署名しなかった。

問 7 正解② (第一次世界大戦への日米の参戦理由) 25

a は正しい。P. 260 の[1]を見て第一次世界大戦に至る国際関係の推移を確認したい。

この流れ図は最重要事項の一つと考えて良い。第一次世界大戦を経て日本の勢力拡大に懸念を抱いた欧米諸国はワシントン体制を構築し，四カ国条約で日英同盟の廃棄が決定した。P. 267 でヴェルサイユ体制とワシントン体制の整理もしておこう。

b の真珠湾攻撃については P. 281 の写真⑦参照。基本的な事項だが，緊張や焦りでケアレスミスの無いようにしよう。

問 8 正解② (オーストリア=ハンガリー帝国構成地域の歴史) 26

①P. 278 の[1]でナチ党ドイツの動きを追ってみよう。再軍備宣言からラインラント進駐，オーストリア併合，ズデーテン獲得と勢力拡大の動きを加速させていく。背景にはイギリスなどの宥和政策(P. 280 の写真①参照)があった。

②ミュンヘン会談は宥和政策の象徴となる。P. 280 の写真①参照

③1920年代の東欧については P. 268 の[2]参照。王政や独裁体制が多いものの社会主義国ではない。この頃はソ連の社会主義化に対して，他の国々の警戒が強かった。ただし，年表をよく見ると，第二次世界大戦において「ソ連軍による解放」といった記述が各国で見られる。第二次世界大戦後，東欧はソ連の衛星国となっていく。

④P. 242 の[2]でオスマン帝国の改革の流れを確認しよう。タンジマート→ミドハト憲法→憲法停止→青年トルコ革命と揺れ動いていく。青年トルコ革命を好機として，オーストリア=ハンガリー帝国はボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合し，セルビアとの対立を招いた。なお，ボスニア・ヘルツェゴヴィナはユーゴスラヴィアの解体にともなって独立した。P. 293 の[4]を見よう。ボスニア以南にはオスマン帝国統治時代の影響で，東方正教徒のほかムスリムが多く，紛争の原因となっている。

問 9 正解④ (捕虜の処遇) 27

日本の朝鮮支配については P. 252 を参照。1897 年に国号を大韓帝国と改称し、高宗が皇帝となっても、日本側の態度は変わらず、抗日義兵闘争やハグ密使事件に至る。年表に書かれているので確認しておこう。

第4問 世界史上の遊戯やその伝播と受容

A

問1 正解③ (戦車の歴史) 28

- a 馬と戦車の戦術が古代帝国の基礎であることは確か。P. 71 のコラムを読んでほしい。ヒッタイトはこれに製鉄技術も加えてアナトリアなどを支配し、シリアをめぐるエジプトと争った。P. 70 の1と P. 71 の地図Bを参照。
- b 第一次世界大戦の新兵器については P. 262 のコラムを参照。戦車・戦闘機・潜水艦などを多用した長期戦は「総力戦」となり、戦中・戦後に大きな影響を与えた。

問2 正解④ (世界史上の女王) 29

- ①古代エジプトのファラオの中で、神官団の影響力を避けてテル=エル=アマルナに遷都したのはアメンホテプ4世。P. 72 の人物コラム参照。同ファラオの息子または娘婿が有名なツタンカーメンである(P. 73 コラム)。クレオパトラはプトレマイオス朝エジプトの最後の女王で(P. 89 人物コラム)、カエサルの寵愛を受けた。彼女の死とプトレマイオス朝の滅亡は、ヘレニズム時代の終焉とローマの地中海支配の確立を意味する。
- ②日本と中国の間の朝貢関係については、後漢の光武帝から授かったとされる「漢委奴国王」と刻まれた金印が有名(P. 15 写真①参照)。印綬にもそれぞれデザインがあって面白い。魏晋南北朝時代の日中関係は P. 114。邪馬台国の卑弥呼の親魏倭王の称号は、三国時代の魏から授かったもの。倭の五王が朝貢したのは南朝である。
- ③大航海時代の探検には国王などのパトロンがつきもので、スペイン・ポルトガル両国は競って探検航海を行わせた。P. 182 の1を参照して、イサベル1世・カルロス1世時代のスペインの航海者や、ポルトガルの航海者を整理しよう。どこに行き、どのような役割を果たしたかは P. 183 の地図Aで確認しよう。
- ④P. 205 で確認。前後の国王に比べて注目度が低い。選択肢①②③ははっきりと間違った内容なので、正解は導きやすい。イングランドのウェールズ併合は13世紀、スコットランド併合が1707年(アン女王のとき)、アイルランド併合が1801

年(ジョージ3世のとき)である。2014年にイギリスからの分離・独立を問う住民投票がスコットランドで行われ話題になった(P. 309 参照)。

問3 正解④ (近代オリンピックの開催地の歴史) 30

P. 241 にオリンピックに関するコラムがあるので、見てほしい。

- ①ギリシアの歴史はアテネの民主政の成立過程として、P. 80 の[1]のように語られることが多いが、すべてのポリスが同じ経過をたどったわけではない。しばしば比較されるのはスパルタである(同ページの[3])。スパルタではペリオイコイ・ヘイロータイのような民主政治に参加できない人々がおり、リュクルゴス制とよばれる軍国的・鎖国的体制がしかれた。
- ②P. 291 の[5]参照。ソ連のアフガニスタン侵攻を受けて「強いアメリカ」を掲げたのは、アメリカのレーガン大統領。しかし、このような政策が「双子の赤字」を生じさせた。1980年のモスクワオリンピックをアメリカや日本がボイコットしたのはこの頃だが、当時の大統領はレーガンではなくカーター。レーガン大統領の下で開催されたロサンゼルスオリンピックでは逆に、ソ連などがボイコットしている。ブレアはイギリスの首相で、P. 308 に掲載。
- ③慶州は新羅の都で、P. 175 に掲載。ソウルは漢城と呼ばれていた。
- ④P. 258 の[2]。ニュージーランドの先住民マオリとともに知っておきたい。

B

問 4 正解② (中国から伝わった制度や文物) 31

- ①P. 193 でルネサンスの三大改良を確認。「発明」ではないが、おさえておきたい知識と言える。
- ②P. 112 のコラムで製紙法について整理したい。製紙法がイスラーム世界に伝播する契機となったタラス河畔の戦いについては P. 29 も見て、アッバース朝と唐の戦いであることを確認しよう。モンゴル帝国時代の中国ーイスラーム文化の交流としては、ミニアチュール・授時暦・染付などがあげられる。P. 165 で確認しておきたい。
- ③養蚕は新石器時代の中国で始まった。中国産の絹は、シルク=ロードや海の道を通じてヨーロッパに伝えられ、権力者や富裕者が競って求めた。中国は絹の製法を長らく秘密にしていたが、P. 139 にあるように、6 世紀にはビザンツ帝国に伝わった。
- ④P. 174 の 2 で新羅・高麗・朝鮮の特徴を比較しよう。新羅の骨品制(血縁的貴族制)に対し、高麗・朝鮮では両班の台頭が目立つ。P. 175 もあわせて参照し、両班勢力の確立の裏に、科挙の採用があることを把握しておこう。

問 5 正解④ (競技や闘技が行われた場) 32

- a ペルセポリスの写真は P. 75 にある(写真⑩)。儀式用の巨大な宮殿であり、多民族国家アケメネス朝を象徴していた。コロッセウムは古代ローマの市民に見世物を提供した場所である。P. 93 の写真⑩のように円形をしており、首都ローマ以外にも多くの都市にあった。
- b 球戯場の誓いはフランス革命初期の出来事で、憲法制定のスタート地点になる。P. 218 にその様子を伝える絵画が掲載されているが(写真⑤)、革命に関連する出来事や人物の絵画はダヴィッドによるものが多い。

問 6 正解② (20 世紀以降のアメリカと日本・中国との関わり) 33

- a 九カ国条約は第一次世界大戦後のワシントン会議で結ばれた条約で、中国の領土保全などを定めた。P. 267 参照。

- b** ニクソン訪中は、ベトナム戦争でアメリカの威信が低下した時代の出来事。ニクソンはベトナムからの名誉ある撤退をねらい、中国・ソ連との関係改善を模索していた。P. 290 の²の図式を見ておきたい。
- c** A B C D ラインは第二次世界大戦中の対日包囲網で、P. 280 の¹参照。

C

問 7 正解② (宇宙を論じた思想や人物) 34

- a 宋学の本質をきっちり理解するのは難しいが、宇宙・世界の全体像を説明しようとした壮大な哲学大系であることはおさえておこう。P. 155 の4を参照。漢代の五経博士の設置と対比して、宋学の四書重視もおさえておこう。
- b P. 84 の2参照。アリストアルコス(アリストarco)はヘレニズム文化の自然科学を代表する人物のひとりで、地球の自転と公転を主張した。地動説をめぐる議論が何年後にヨーロッパで巻き起こったか、改めて確認しなおしてみよう。

問 8 正解②または④ (貞享暦) 35

日本語の言い回しの関係で、正解が2つになったが、問題の主旨は明快。P. 165 の写真⑥に解説があるので読んでほしい。

問 9 正解③ (長安で起こった歴史上の出来事) 36

- ①後見返しに中国史上の首都と重要都市の変遷がまとめてあるので、歴代の都と名称を整理してみよう。黄河寄りから、次第に大運河寄りに移っていく。明代の都は、永楽帝時代の南海遠征の始まる頃までは南京であったが、その後、タタール・オイラトなどに対抗する必要もあり、北京に遷都された。
- ②③P. 274・275 をじっくりと見て、上海クーデタと南京国民政府の成立、張学良が蔣介石を監禁した西安事件、共産党の瑞金から延安への長征など、地図上での位置も含めて確認しよう。
- ④日中戦争中、抗日の拠点となり国民政府も遷ったのは重慶。ここを脱出して日本に和平を呼びかけ、南京に中華民国国民政府を樹立したのが汪兆銘である(P. 281 の年表)。もちろん、形式的な政府に過ぎず、汪兆銘は抗戦派に激しく非難された。